

定量的弱部分析手法等検討会(第1回)



内閣府政策統括官(防災担当)

令和8年1月23日

定量的弱部分析手法等検討会の開催について

- 防災立国の推進に向けた基本方針(令和7年12月26日閣議決定)では、防災庁が担う役割の一つとして、被害想定の精度向上及び高度化を図るとともに、国・都道府県等が連携し、地域レベルでの具体的かつ分野横断的なシミュレーションに基づく災害リスク評価を通じて、大規模災害に対する社会や地域における弱部のあぶり出しを推進することとされている。
- そのため、被害想定の精度向上及び高度化に係る手法や、シミュレーションに基づく災害リスク評価手法についての検討を行う有識者検討会を内閣府において開催する。

検討会委員等

開催予定

第1回:令和8年1月23日 16:00-18:00

第2回:令和8年3月10日 15:00-17:00

(令和8年度以降継続して開催予定)

主な検討事項(R7年度予定)

①被害想定の精度向上・高度化

- 被害想定手法の現状の課題整理及び今後の方針検討
- 被害想定手法(国)及び都道府県の被害想定手法を参考事例として紹介する手引き(案)のとりまとめ

②定量的弱部分析手法の検討

- 定量的弱部分析ガイドライン作成に向けたモデル地区での検討
- 地域特性に応じた災害シナリオ及び防災上の課題や弱部等の把握手法に関する課題整理

氏名	所属・職名
検討委員	磯打 千雅子 香川大学 IECMS地域強靭化研究センター 特命准教授
	井出 多加子 成蹊大学 経済学部 教授
	大原 美保 東京大学大学院 情報学環 教授
	加藤 孝明 東京大学 生産技術研究所 教授
	鍬田 泰子 神戸大学大学院 工学研究科 教授
	廣井 悠 東京大学 先端科学技術研究センター 教授
	福和 伸夫 名古屋大学 名誉教授 (座長)
	山本 尚範 名古屋大学 医学部附属病院救急科 診療科長
	横田 崇 愛知工業大学 地域防災研究センター長・教授
行政委員	宮城県 復興・危機管理部 防災推進課長 静岡県 危機管理部 危機政策課 新被害想定担当室長 高知県 危機管理部 南海トラフ地震対策課長

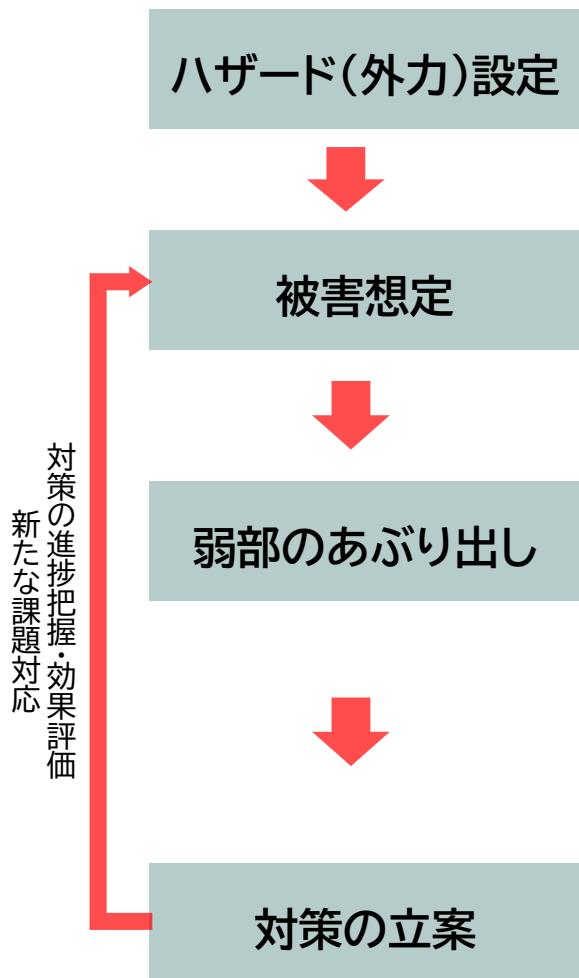
※検討分野に応じて、臨時委員を追加予定

第1回大規模地震防災対策推進検討会における課題と方向性



目標	課題	方向性
被害を予防軽減するための事前防災	A:地域における効果的な防災対策の立案	<ul style="list-style-type: none">①被害想定の精度向上・高度化②災害リスク評価手法の検討
	B:被害軽減防止のための事前防災の徹底	<ul style="list-style-type: none">③優良事例の発掘・横展開、進歩の要因分析・課題整理④人材育成・組織体制の確保
	C:行政だけに頼らない個人や企業の自律的な取組の促進	<ul style="list-style-type: none">⑤防災教育・啓発施策の推進⑥帰宅困難者等対策の充実⑦防災産業への参画を拡大⑧コミュニケーション手法の検討

【A：地域における効果的な防災対策の立案】に関する新たな方向性



【□□地区の例(イメージ)】

- ・ 震度●
- ・ 負傷者●●人
- ・ 負傷者の救出、搬送、治療などが可能かをシミュレーション
→ ▲▲が不足
■■地区が孤立のおそれ
- ・ 各種計画への反映
▲▲の追加確保
■■地区の事前防災対策

【国の取組】

○マクロのシミュレーションによる被害全体像を把握
(大規模地震等)

○被害想定手法の手引き(案)
作成(~R7)
○新たな手法や被害想定精度
向上の研究・開発

○定量的弱部分析ガイドライン
(案)の作成 (検討会 R8~)

<内容>

- ・ 地域特性に応じた災害シナリオや評価項目の設定手法
- ・ 防災上の課題や弱部等の把握手法

①被害想定の精度
向上・高度化

②定量的弱部分析
手法の検討

検討スケジュール (案)



検討会

第一回

1月23日(本日)

16:00-18:00

①被害想定手法の向上・高度化

- ・ 検討目的・方向性
- ・ 手引き(事務局整理案)提示

②定量的弱部分析

- ・ 検討目的・方向性
- ・ 事務局アウトプットイメージ提示

- ・ 手引き(案)意見照会

第二回

3月10日

15:00-17:00

- ・ 被害想定手法の現状の課題整理
及び今後の検討方針
- ・ 手引き(案)確認

- ・ モデル地域試行を踏まえた今後
の検討方針

→公表へ

令和8年度以降

- ・ 手引き適宜更新
- ・ 優先課題の検討・研究

(ガイドライン公表)
定量的弱部分析についての継続検討